



(題字は初代学長 山田守英氏)

第 122 号

平成17年12月15日

編集 旭川医科大学
教務・厚生委員会
発行 旭川医科大学教務部学生課



ピョウタンの滝 (中札内町)

(写真撮影：学生課)

就任ご挨拶	清水 恵子	2
医学科第2学年次後期編入学生入学式		3
外国人留学生交流事業		3
かるた大会優勝		4
「クリスマスコンサート2005の開催」 のお知らせ		4

学内ニュース

ウィンターシーズン到来!!	
スキー、スノーボードで楽しい冬を!!	5
続ウィンターシーズン到来!!	
冬道の歩行、運転に気を付けよう!!	5

構内の省エネに協力してください?	5
------------------	---

クラブ紹介

「氷上の格闘技」

アイスホッケー部	佐藤 剛	6
旭川医大男子ハンドボール部	佐藤 慎	6

「畳上の格闘技！」

旭川医大かるた会	田原 大地	7
旭川医大茶道部	辻 明日香	7
クラブのボックスはこまめにチェック		8
教員の異動		8
窓 外	郷 一知	8



就 任 ご 挨拶

法医学 教授 清水 恵子

平成17年11月1日付けで、塩野 寛副学長の後任として法医学講座教授を拝命致しました。故石橋宏元副学長、塩野 寛副学長により築き上げられて参りました伝統を継承すると共に、法医学講座及び本学の発展のために、微力ではございますが、誠心誠意尽くす所存でございます。どうぞよろしくお願い致します。

私は昭和56年北大理Ⅱ系に入学し、薬学部（旧薬品合成化学講座）で修士課程を修了し、平成元年に本学の門をくぐりました。卒業後は法医学の大学院に進み、当時島根医大（現島根大学医学部）に在籍されていた松原和夫薬剤部教授の研究室に、薬毒物の中枢神経毒性機構の研究で短期国内留学し学位論文を作成致しました。大学院の間に、塩野 寛教授、並木昭義札幌医科大学麻醉科教授のご高配により、札幌医科大学麻醉科と旭川赤十字病院麻醉科にて臨床研修をさせて頂きました。大学院修了後、法医学講座に奉職し、平成14年6月から10ヶ月間、文部科学省在外研究員として、米国シカゴロヨラ大学薬理学に留学させて頂きました。去年、親の介護で半年間法医学を離れましたが、この度諸先生方のご尽力によって、幸いにも法医学講座に戻ることが許されました。

私の研究テーマは主に2つございまして、一つは、法医学解剖での中毒事例をベースとして、薬毒物簡易分析法の開発と、体内分布を検討し、死因との因果関係を、考察してきました。もう一つは、法医実務上遭遇する薬毒物の、中枢毒性学的な基礎研究を行ってきました。例えば、ベンゾジアゼピン系薬物とアルコールによって生じる健忘作用について、行動薬理学的および神経化学的な基礎研究を行い、また、毒物として使用されると致死率の高い除草剤パラコートに関して、低濃度暴露時の中枢神経毒性機構を検討しました。また、当講座は塩野教授以来、法医DNA鑑定のメッカであり、現在も安積助教授や浅利助手によって、高度な法医DNA鑑定の作業が日々行われております。

法医学は、その性質上実務と致しまして、公平で質の高い法医学解剖（司法解剖・承諾解剖）と正確な鑑定書の発行が要求されます。法医学は常に“公平中立な立場”から、司法制度を維持し、人権擁護・公共の福祉に貢献して行く必要があります。旭川医科大学法医学講座は、法医学解剖数、その他の鑑定依頼数が、道内で一番多く、これまで講座が築いた質の高い社会貢献を、将来においても維持して行くことができれば幸いと存じております。平成21年度から、一般市民の参加する裁判員制度が導入されます。我々の発行する司法解剖の鑑定書は、より簡潔・明解である必要性があり、専門家ではない一般市民の方々に、短時間で正確に要点をご理解頂ける事が、課題となってきます。

現代医療には、高度に専門化した知識・技術が必要とされますが、一方では全人的医療を遂行できる医師の教育が望まれております。その意味で、卒前教育において、社会と医学の接点を扱う法医学講座の担う役割は少なくないと考えています。また、卒後教育の一環として、検案を行う臨床医への支援活動や、死体検案資格認定の為の実習指導があります。北海道における検案数は、ここ数年増加傾向にあり、全道での年間検屍数は約5800体、その96%以上は臨床科の先生方のお世話になっております。臨床業務の傍ら、検屍をされている先生方の勉強会へ参加させて頂く事、救急病院からの各種問い合わせに答える等、“相談窓口”としての法医学講座の機能が重要かと考えております。

前任者の塩野副学長は、日本法医学会理事長、大学評価・学位授与機構医学系教育評価専門委員、大学評価・学位授与機構試行的評価検証委員、学術審議会専門委員を歴任され、第88次日本法医学会総会を28年ぶりに昨年北海道（旭川）で開催されました。全国でも伝統ある当法医学講座の名を汚さぬ様、未熟者ですが全力で努力する所存でございます。今後とも皆様のご理解、ご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

医学科第2年次後期編入学生入学式

平成17年度医学科第2年次後期編入学生の入学式が10月3日（月）10時00分より第一会議室にて執り行なわれました。

当日は、八竹学長より祝辞が述べられ10名が旭川医科大学学生として新たなる学生生活をスタートしました。

編入学生は次のとおりです。

氏 名

川 上 英 之 杉 本 繁 博
藤 原 美佐紀 松 村 大 輔
三 浦 優 三 枝 敬 仁
志 賀 美 紘 高 橋 千 晶
福 島 怜 前 田 敦



外国人留学生交流事業

平成17年度外国人留学生交流事業の一環として、外国人留学生秋季オリエンテーションが、11月25日（金）に行われ、在籍留学生全員の11名（大学院生7名、研究生1名、研究員3名）とその家族2名及び引率職員3名の合計15名が参加しました。

旭川医大管理棟玄関前に集合した15名は、9時30分に最初の訪問地「北海道伝統美術工芸村」を目指し、元気に本学を出発しました。

今回は、自分たちが住んでいる旭川を見直す意味で旭川市南が丘にある「北海道伝統美術工芸村」と宮前通にある「サイバル旭川市科学館」を訪れました。

「北海道伝統美術工芸村」はテーマの違った3つの施設で構成されており、まずは、世界各地、日本各地のさまざまな染織美術を展開している「国際染織美術館」を見学しました。ここでは、天然繊維、天然染料、手織りの時代の遺産、染織文化の華やかな時代の逸品が数多く展示されていました。

続いて、旭川市の染織家 木内 綾、木内和博が北海道の美しい風土をモチーフに創作した手織り物を飾った「優佳良織工芸館」を見学しました。展示室は千年以上地中に埋もれていたニレやタモの埋木、クルミ、オノコ、ナラなどの北海道の天然木で構成されており、作品の多くは、「流水」「ミズバショウ」「白鳥」など、北海道にある自然をテーマにしたものでした。

最後に大雪山系のふもとに降る雪の結晶の美しさから造られたという「雪の美術館」を見学しました。地下へとつづく「雪の美術館」は、建物から展示まで、すべて雪をイメージしてつくられています。その中の一つ「スノー・クリスタル・ミュージアム」は、雪の結晶の研究に生涯をささげられた北海道大学低温研究所の小林禎作教授（1925～1987）の研究資料のすべてが保管されており、これを基に同研究所の古川義純先生のご監修で、雪の結晶が約200点ほど展示されていました。

昼食は、「福鶴亭」で全員和食に挑戦し、伝統の日本の食文化にちょっとだけでも触れられ、全員満

足の笑顔でひとときの交流を楽しみました。

昼食後、重いお腹をさすりながらも元よく最後の訪問地である「サイバル旭川市科学館」に向かいました。

私たちのまわりで見られるありふれた現象の中にも、たくさんの「ふしぎ」があり、それを感じ取ることから科学の楽しみが始まります。そんな素朴な疑問に楽しみながら答えてくれるのが「サイバル旭川市科学館」でした。その中でもメインは「プラネタリウム」で、日本でも1台しかないというカールツェイス社製最新式プラネタリウムを導入したドームでの映像システムで約40分間の天体観測を行い夢気分の中「サイバル旭川市科学館」を後にしました。

ちらちらと粉雪の舞う夕方の空をながめつつ、全員、無事に旭川医科大学到着となりました。

留学生の皆さんお疲れさまでした。明日からも元気でがんばってください。（学生課）



←「優佳良織工芸館」正面ホールにて



「サイバル旭川市科学館」の「ハウルの動く城」の前で↓

かるた大会優勝!!

去る8月7日に滋賀県大津市の近江神宮勸学館にて開催されました第12回全日本かるた大学選手権大会（社団法人全日本かるた協会主催）におきまして本学医学科3年の田原大地君が個人戦「大学代表の部」でみごと優勝をかざりました。

田原君は第10回大会個人戦優勝、第11回大会個人戦準優勝という輝かしい戦績を残しております。

なお、今大会の記事が9月17日付け北海道新聞夕刊に掲載されたので、ご存知の方も多いと思いますが、今回の功績をたたえ10月11日に本学より学生表彰されましたので併せてお知らせします。

田原君の日頃の活動などは、7ページのクラブ紹介の欄にて本人よりの記事を掲載しておりますのでご覧下さい。



「クリスマスコンサート2005の開催」のお知らせ

来る12月24日に旭川医科大学病院の玄関ロビーにて本学の音楽系クラブによりますクリスマスコンサート2005が開催されます。

例年、「入院されている方々に生の演奏等により、ひと時の安らぎを」という趣旨で音楽系クラブが、それぞれ日程を設定してクリスマスコンサートを開催しておりました。本年は玄関棟並びに外来棟の改修工事中ということで開催が不可能かとも思われましたが、担当部署並びに工事業者さんのご協力のもと開催可能日を設定していただきまして、はれて開催できる運びとなりました。

当初は音楽系4団体がコンサートを行う予定でしたが、時間の都合により、今回は「プラスアンサンプル」によります開催のみとなりました。

詳細につきましては右欄のとおりとなっておりますので、ぜひとも、クリスマスイブのひと時を楽しんでいただきますよう沢山のご来場をお待ちしております。

なお、今回参加できなかったギター部につきましては、ニューイヤーコンサートと題して1月に開催できるよう計画しておりますのでよろしくお願いいたします。

クリスマスコンサート2005 プラスアンサンプル

日	時	12月24日(土)	14:00 開始 15:30 終了予定
場	所	旭川医大病院	玄関ロビー
曲	目	クリスマスキャロルファンタジー ドリフ・メドレー 君の瞳に恋してる ホール・ニュー・ワールド(ディズ ニー映画「アラジン」のテーマ)	
			ほか



ウインターシーズン到来!!

スキー、スノーボードで楽しい冬を!!

今年も寒い寒い冬がやって来ましたが、北海道の冬が初めてという学生諸君も大勢いると思います。

しかし、寒いとばかり言って家の中に閉じこもってばかりもいられません、寒い冬には冬の楽しみ方があるはずです。

その楽しみ方の一つとして学生課では、スキー、スノーボードの貸出しを行っております。

月曜日、水曜日、金曜日のお昼(12時30分から13時00分)に福利厚生棟1階の理髪室の隣に有ります

管理室にて申し込んでいただければ、寒いだけの冬が楽しい冬に変わるかもしれません。

数、サイズに限りがありますが、初めてのスキー、スノーボードに挑戦したい方の申込みをお待ちしております。

なお、昨年のシーズンに貸出しましたスキーを返さずにそのままにされている方は至急返却してください。(そのまま借り続けるならば借用期間の延長手続きをお願いします。)

続ウインターシーズン到来!!

冬道の歩行、運転に気を付けよう!!

今年も寒い寒い冬がやって来ましたが、北海道の冬が初めてという学生諸君も大勢いると思います。

(・・・前の記事と同じ???)

滑りやすい夏靴のままで通学している人はいませんか?これから雪が多くなると道路も狭くなり歩道が無くなって、車道を歩かなければ通行できないような道路が増えてきます。

そんな道路の凍結した路面で滑ってころんで骨折なんてことになれば大変ですね。

足元から対策をしっかりと、これからの本格的な冬に備えましょう。また、駐車許可をもらって、車で通学している人の中には冬の運転が初めてという方もいると思いますがどうでしょうか?

きっとかなり緊張して運転されていることでしょうね、ベテランのドライバーでも雪の降り始めには慎重な運転を要求されるものですからね。

また積雪量はそれほど多くは無いですが、気温が下がり一旦凍結した路面が日中解け始めますとツル

ツルの路面に変わります。

そうなると大変です、どんな性能の良い車だろうが無理なブレーキを掛けると滑る滑る路面はまるでスケートリンク状態で、下手をすると一回転なんてことになります。

ただ単に車だけが一回転ならば良いですが、周りには歩行者がいたり前後に車がいたり対向車がいたりしてパニックとなり目を開けていられないかもしれません。

万が一、人身事故で歩行者が大ケガなんてことになれば、いままでの人生が一変してしまう可能性だってあるのですから。

特に交差点の手前、橋の上、トンネルの出入り口、踏切の手前などは圧雪というよりも氷の路面が多いので、例年事故のニュースが新聞などで報道されています。

そんな危険な場面に会わないよう、くれぐれも運転には気を付けましょうね。

構内の省エネに協力してください?

体育館、コピー室、講義室、ロッカー室、etc・・・大学の中には沢山の部屋があります。

その中の数か所の照明が不在にもかかわらず昼、夜、問わず煌々と明かりを放っている時があるという連絡が施設課よりありました。

もしも、そのような無駄なことをして平気な人がいるならば残念でなりません。

当たり前のことですが、電気製品や機器、それに部屋の照明、自分の住居にいても点けっぱなしとい

うことは無いと思います。

小学生や中学生に言っているようで悲しいのですが、大学内でも自分の住居も無駄をしていれば、お金がいくらあっても足りません。

「協力してください」という言葉よりも、普段の当たり前の行動として退室する時には電気製品・機器、照明のスイッチを切っていただき無駄を無くすようにお願いします。

クラブ紹介

氷上の格闘技

アイスホッケー部 主将 佐藤 剛

アイスホッケーはよく氷上の格闘技といわれる。ゴールを巡ってスピーディーにバックを運び、敵と激しくぶつかり合う競技だからだ。

そんなアイスホッケーを愛する我が部は部員26名（マネージャー6名）からなる。みんなかなりの個性派揃いだ。まあ、医大生自体が個性派揃いだとも強く思う…。兼部員も多くバレー、サッカー、野球、ラグビー、弓道と幅広く、それがホッケーのプレースタイルにも垣間見られておもしろい。遠征が多いため部員は当然仲がいいし、部長の松野丈夫教授（整形外科科学講座）が大のホッケーファンということもあり夜（飲み会）も熱い。

活動は大雪アリーナの使用期間が冬のみなので、夏は氷を求めて釧路・帯広に遠征したり、インラインホッケー部として活動している。陸上トレーニングも行っている。グラウンドで走ったりサッカーや水泳をしたり。夏は氷上にいるよりサッカーをしている時間の方が長い…とは認めないようにしている（苦笑）。

では実力はどれくらいか!? 東医体ではまだ優勝に絡めてはいない（昨年6位）が、今年の旭川リーグでは1部優勝、今年の旭川インラインホッ

ケーリーグでも全勝優勝と「旭川では」それなりのチームである。インラインでは扎扎实り8月の全国大会にも出場した。ちょっと自慢コーナーになってしまいました…。

そんな僕らのいいところアピールは環境柄、氷上練習に貪欲なことだ。夏は平日でも帯広に練習に行く者がいる。もちろん授業が終わった後！ 夏休みなら釧路や八戸まで練習しに行く者もいる。とにかく氷上練習の大切さを知り向上心がある。

これからもその姿勢を保ちつつ、東医体優勝、インカレ出場を目標に夏場のインラインを含め強く楽しい部活を目指していきたい。

最後にいつでも新入部員は歓迎します。私以外みな大学から始めたので全く心配なしですね♪



旭川医大男子ハンドボール部

男子ハンドボール部 主将 佐藤 慎

「ハンドボール」という、世間ではドラマにも漫画にさえもテーマとして取り上げられないような一つのスポーツの面白さと、そこに集まる部員たちが作り出す何とも心地いい雰囲気にとりつかれ入部して早三年。私にとってそれは今も変わらず、現部員はおろか顧問の先生やOB・OGの方々とも共有できる思いであると信じている。

そうでなければ、大学という場所において部活動を続けていくことなど出来ないであろう。週3回の練習に加え年数回合宿もあり、マイナー競技ながら意外と大会も多く出費もかさむ。したいこと、すべきことが他にもあるとき、部活動を投げ出したくなる瞬間はゼロではない。しかしここにはお互いを支え合い、高め合い、尊重し合える仲間がいるのだ。

話は少し変わるが、うちの部には固定のコーチはいない。私は主将という立場上、学内外における部活動の「責任者」「まとめ役」ではあるかもしれないが、技術を部員に叩き込む「コーチ」ではない。うちの部でそれをなしているのは部員全員なのである。全員が向上心を持ち、どう練習したらいいのかを考え、話し合い、そして共有する。

私はそれを練習において実行に移す。そうして築き上げられたものは確かなものであり、試合に勝てた時の喜びは何物にも代えがたいものとなるのである。

しかし我が部活動の魅力とは、「その喜びを得ることができる」だけではないのだ。ハンドボールを通じてたくさんの人と出会うことができる。練習以外での付き合いも多く、楽しく、心地いい。これが医大における部活動のあるべき姿であると自負している。

最後に、顧問である上口先生をはじめ、多くのOB・OGの方々、うちの練習に遊びに来てくれる方々等、ハンドボール部を支えて下さっている皆様に感謝しつつ今後も活動を続けていきたい。



クラブ紹介

畳上の格闘技！

旭川医大かるた会 田原大地

かるた会では小倉百人一首を用いて「競技かるた」を行っています。北海道で盛んな下の句かるたとは異なり、読み手は歌の上の句を読み、下の句が書かれた紙の札を1対1で取り合います。普段の練習は教育大生や社会人の方々と和室や神楽岡公民館などで行っています。

「かるた」と聞くと「お正月だけ活動するのかな？」と思われる方もいらっしゃると思いますが、全日本かるた協会主催の大会が一年を通して全国各地で開催されており、お正月に限った競技というわけではありません。(男女それぞれの頂点を決める名人位・クイーン位の決定戦は毎年お正月にNHKで中継されており、ご覧になったことがある方もいらっしゃるかと思います。)

その中で、私たちが目標としているのは、毎年8月に滋賀県の近江神宮で行われる全日本大学かるた選手権大会です。

二年前には北海道勢初の団体戦出場を果たすことができましたし、二度の個人戦優勝を成し遂げる事ができました。

かるたの一番の魅力は老若男女が楽しめることだと感じています。大会の多くは実力に応じてクラス分けされており、小学生と試合をすることもあれば、ご年配の方と試合をすることもあります。

記憶力・反射神経・集中力が必要とされ「畳上の格闘技」とも形容される激しいスポーツ的な一面もありますが、多くの人との出会いの場でもあるのです。

昨年は、「小倉百人一首競技かるた」のルールが黒岩涙香によって統一されて以来100周年を迎えるのを記念して全国各地でイベントが行われました。また、国民文化祭の正式種目としても採用され、今年の福井県での国民文化祭では39都府県の代表が揃い、技を競い合いました。(ちなみに私は出身地である島根県の代表として出場しました。)

現在、学生を中心に競技人口は増加しており、今後も多くの人と出会うことを楽しみにしております。

実際に活動している姿をご覧いただく機会はあまり無いかもしれませんが、「そんなことをやっている学生もいるんだなあ」と思って頂ければ幸いです。



旭川医大茶道部

茶道部 辻 明日香

茶道部は、旭川医大が創設された初期から続く歴史ある部活です。現在、男性部員も含め25名程の部員で活動しています。創部当時からずっと裏千家の堤寿子先生にご指導いただいています。我が部は、一番のイベントである6月の医大祭で行われるお茶会を目標に、週に一度堤先生のご指導のもと大学内の和室で練習をしています。大半の部員は初心者ですが、半年もすればある程度お点前もできるようになり、二年目になると医大祭のお茶会でのお点前もしっかりできるようになります。2005年度は学祭のお茶会以外にも、旭川で開催されていた他のお茶会に参加したり、旭川医大に研修に来ていたJICAの方々とお茶会を通して交流したりと、様々な体験ができました。

茶道でお点前をするには、その一つ一つの過程における動作を身に付けなければなりません。例えば袱紗の捌き方、棗・茶杓の拭き方、茶巾のたたみ方、湯杓の扱い方などがありますが、それぞれの動作を身に付けるために割り稽古をして、それらの動作ができるようになると次にお盆を使った



簡単なお点前へと進みます。そしてさらにそれができるようになるとまた次のお点前へと進んでいくといった感じです。そんな風に新たなステップへと進めた時は本当に嬉しいものです。週に一度という限られた時間ですが、本格的に作法を身に付けられることができるのも茶道部の楽しみの一つです。また、練習の時には先生が和菓子を持ってきてくださるので、毎回練習の時には和菓子が食べられます。美味しい和菓子を食べながらお抹茶をいただくのもまた茶道部ならではの楽しみです。

先輩に作法を教えてもらったり、逆に後輩に尋ねられることで自分の曖昧だったところを気付かされたりと、色々な活動を通じて人間関係も深まります。これからも茶道部のOBでもあり、顧問をしていただいていいる入学センターの坂本尚志教授のご協力の下、練習に励んでいこうと思います。



クラブのボックスは こまめにチェック!!

最近、クラブのボックス（レターケース）がダイレクト・メールや広告で一杯になっているのが目に付きます。

ボックスは、クラブ宛ての郵便物や学生課からのお願い、荷物到着の連絡などのために用意されているものです。（緊急の場合は掲示にて対応しております。）

毎日のように中を確認しているクラブもあるのですが、半年以上も確認していないクラブもあるようです。

その中には、本当にクラブとして活動しているのか？と疑問が出てきそうなひどい状態のボックスも

あります。

そのような疑問を持たれないようにクラブのボックスはこまめにチェックしてください。

教員の異動

辞 職 平成17年9月12日

第 一 内 科 講 師 中 野 均

昇 任 平成17年9月16日

第 一 内 科 講 師 相 澤 仁 志

辞 職 平成17年10月30日

健康科学講座 助教授 今 井 博 久

採 用 平成17年11月1日

法医学講座 教 授 清 水 恵 子



窓 外

救急医学講座
郷 一 知

窓の外，障子の外

「窓外」；窓の外には何があるのでしょうか。世界有数の企業となったトヨタ自動車も、まだ先行きが見えなかった頃経営にひどく行き詰った時期が何度かあったようです。社長宅での会議中、もうどうにもならないという空気が座を支配しようとした時、二代目（だったと思います）の豊田社長が「障子を開けてみろ、外には広い世界があるぞ」と視点を変えて考えるよう言ったということです。起死回生の策を得意とした高杉晋作の父は「困ったと言うな、困ったと言えば本当に困る。困ったと言わなければ策が生まれる」と言ったとか。

閉塞感にとらわれがちになる問題が山積しています。私の担当する救急医療に関して言えば、小児の救急と精神科救急。大学病院に関して考えると、国立大学法人の枠の中での大学病院の制度上経済上の諸々の問題点。更に、行き詰まりつつある現行の保

健医療制度、医療費総額の少なさ、医師教育制度の欠陥、天文学的国家債務。

最近の日本の国家予算のうち一般会計は80～90兆円程です。その内容については毎年侃々諤々の議論が戦われます。一般会計に対して特別会計というのがあります。こちらは公開されず公の議論の俎上にかかることはありません。特別会計は300～400兆円ほどです。一般会計の約半分をはじめとして、郵便貯金、簡易生命保険、国民年金、労働保険、厚生保険、船員保険、道路整備特別会計などがこの中に吸い込まれて目に見えなくなってしまいます。70余りの特殊法人の会計で、日本のGDPの半分以上はこの特別会計なのです。2004年までは国立学校の予算もこれに含まれていました。公の目に触れづらく、極めて理解困難な形をしているのが特別会計の特徴です。千兆円単位の大天文学的な累積赤字を今後どうやって解消していくのか、医療や教育を含む諸々の問題をどのように解決していくか、特別会計や特殊法人をどのように扱っていくかにかかっていると言っても過言ではありません。

わが教室や、わが大学や、わが国の医療や、わが国そのものの行く末を考えると、「窓外」、「障子の外」、「困った」などという言葉が脳裏をよぎり、何とか規制概念にとらわれない発想ができないものかと思うこの頃です。